

【集会 & 政府交渉】

柏崎刈羽原発の再稼働を問う

－原発事故と地震・豪雪の複合災害で避難は可能？

柏崎刈羽原発の再稼働について新潟県の地元同意が焦点となっています。

その前提の一つが、避難計画の実効性です。

原子力規制委員会の定めた原子力災害対策指針は、原発で深刻な事故が発生した場合、PAZ（原発から半径 5 km 圏内）の住民が避難、UPZ（半径 5-30km 圏内）の住民は屋内退避することとなっています。能登半島地震では、多くの家屋が倒壊し、避難路も通行不能になりました。つまり、地震等の天災と原発事故との複合災害では、避難も屋内退避もできない状況となるのです。さらに大雪と重なった時に、道路が通行できなくなり、避難が困難になることも予想されます。

政府の柏崎刈羽の緊急時対応（案）では、大雪の際には 5km 圏内でも自宅などで屋内退避とするとなっていますが、これは IAEA の判断基準（実効線量 100mSv／週）を超える大量の被ばくを容認することになります。

このたび、新潟市にお住まいの桑原三恵さん、原発から 3 キロ地点にお住いの陶芸家・吉田隆介さん（前宮川町内会長）をお招きし、院内集会を開催します。また、複合災害時の避難と屋内退避をテーマにした政府との意見交換を行います。

※政府との意見交換の冒頭、原子力災害対策本部長である石破首相宛てに、緊急時対応（避難計画）を了承しないように求めるオンライン署名を提出します。

◆日時 2025 年 5 月 26 日（月）集会 12:30-14:00 / 政府交渉 14:15-15:45

◆場所 参議院議員会館 B104 / オンライン（Zoom ミーティング形式）

◆プログラム（敬称略）

○集会 12:30-14:00

- ・原発から 3 キロ、地域の実情は…吉田隆介（柏崎市在住）
- ・複合災害と PAZ の放射線防護について…阪上武（原子力規制を監視する市民の会）
- ・柏崎刈羽原発をめぐる状況…桑原三恵さん（規制庁・規制委員会を監視する新潟の会）
- ・新潟県による被ばく線量シミュレーションの問題点…満田夏花（FoE Japan）

○政府交渉 14:15-15:45 相手方：原子力規制庁、内閣府原子力防災

◆主催：原子力規制を監視する市民の会

国際環境 NGO FoE Japan

規制庁・規制委員会を監視する新潟の会